

報告

2017年度第1回近畿支部会報告

中串孝志（和歌山大学観光学部）

1. はじめに

さる2017年11月12日（日）、兵庫県川西市にて、以下のように近畿支部会が開催されました。

日 時：11月12日（日）11:00～17:40
会 場：アステ市民プラザ（兵庫県川西市）
テーマ：教養と天文
発表等：8件（招待講演2件含む）
参加者：20名

まず、今回の支部会開催で最も重要なのは、「開催すること」でした。「当たり前ではないか」と思われるかもしれません。

今夏の京都での全国大会の折に近畿支部メンバーでの会合がありました。その際、「かつて近畿支部では支部会を年2回開催していた。近年は年1回になってしまっているが、年2回開催に戻すべきではないか」との提案がありました。多忙を極める天教会員にとって、参加できる機会が増えることは望ましいことです。これを実現するため、とにかく「年内に」開催に漕ぎ着けることが、支部委員のクリアすべき目標となりました。

なお、今回の開催に当たっては、時間切れのため本誌に告知が掲載できなかった等、いろいろと不手際があり、多方面にご迷惑をおかけ致しました。ひとえに支部長（筆者）の仕事が遅いためのことで、この場を借りてお詫び申し上げます。

2. プログラム

[座長：中串孝志]

11:00-11:10 開会挨拶・趣旨説明など
11:10-12:10 【招待講演】

森本誠一（大阪大学産学共創本部）

市民が主体のサイエンスカフェー 理カフェのつくりかた

[座長：中道晶香]

13:10-13:30 玉澤春史（京都大学大学院理学研究科附属天文台）

歴史にターゲットを置いた天文関連のイベント構成

13:30-13:50 野上大作（京都大学大学院理学研究科）

花山天文台の教育普及活動のこれまで・いま・これから

13:50-14:10 宮川祐一（仁愛大学）

天文教育に係る免許更新講習の実施報告（2016年・2017年） 星とのコミュニケーションー子どもたちの天体に対する興味・関心に応えるためにーを終えて

14:10-14:30 中串孝志（和歌山大学観光学部）

和歌山大学の教養教育と天文

[座長：中串孝志]

14:55-15:55 【招待講演】

定金晃三（大阪教育大学）

最新情報をロハで手に入れる ネット時代の情報活用術

15:55-16:40 パネルディスカッション「教養と天文」（パネリスト：森本誠一、定金晃三／ファシリテーター：中串孝志）

[座長：成田直]

16:55-17:15 飯田広史（東大阪市立縄手中学校）

アストロリーダー活動報告 ～実感のある

宇宙観の育成をめざして～

17:15-17:35 小高大輔(大阪市立新北島小学校)

観察者の視点を意識させる月と太陽の授業
17:35-17:40 閉会挨拶

3. 所感など

今回は、テーマを「教養と天文」としました。大仰なテーマに見えますが、天教の各種集会に参加する方々であれば、その活動の場が小学校であれ、大学であれ、一般向けの場であれ、考えや活動が「教養」ないし「教養教育」と全く関係ないという人はいないでしょう(むしろ全員が「教養」について一家言も二家言もお持ちなのではないかと筆者は推察しています)。発表の具体的な内容はいつも通りだとしても、少し「教養」を気にした発表・コメントを考える、あるいはテーマとご自身との関わりを考えるきっかけにできれば、と支部委員は考えました。

開催アナウンスが遅れたこと、夏の年会開催からあまり時間が経っていないこと等々のため、開催可能な発表件数が集まるかどうか大きな不安がありました。最終的には一般発表6件+招待講演2件の計8件となり、結果的に1日での開催にはほどほどの件数になったかと思われ。また開催地が川西市とあまり取り上げられなかった地域(しかし実はアクセスは良いのです)で、多くの方々にとっては大なり小なり不安があったと思われ。それにもかかわらず参加して頂けるほどに熱心な方々が集まり、会場は満席となりました(図1)。遠く岡山県や福井県からの参加者もありました。前回に比べて人数は少なくなりましたが、アットホームな雰囲気、気軽に発言ができたと思います。

発表では、実践事例報告や、現在・将来の活動のコンセプトに関する報告が行われました。発表者もコメントする参加者も各人各様

に立場が異なるため、発表やコメントの内容そのものもさることながら、特に、それぞれの発表の基盤になっているその視点・視座の多様さが、筆者の印象に残りました。

招待講演では、森本氏からはサイエンスカフェ「理カフェ」の実践の歩みの紹介を通じて、ご自身がどのように考えてきたのかをお話し頂きました。また、他に氏が実践されている「哲学カフェ」が高齢者や引きこもりの受容の場となり社会のセーフティーネットとして機能していることもご紹介頂きました。参加者それぞれに、様々な活動のベースになるべき考えを深めるきっかけになったと思います。定金氏からは重力波検出や太陽系外小天体の接近等の最新・最先端の天文学の話題について、インターネット上のどのようなサービスからどれほど深い内容・高い正確さの情報が入手可能なのかの実例を(名調子で)ご提示頂きました。研究・教育の現場ですぐ応用できる、具体的な情報提供になったのではないかと思います。



図1 会場の様子(定金氏の招待講演)

さらに今回は時間に余裕があったので、テーマ「教養と天文」に関するパネルディスカッションを試行してみました。招待講師のお二人を改めてパネリストとしてお迎えし、筆者がファシリテーター役を務めました。テ

マ（の見た目）が重いので、形式張ったものではなく「みんなで話しましょうよ」という雰囲気作りを心がけました。冒頭にこのテーマを提案した筆者から、「教養と天文」をテーマに掲げる動機となったネット記事[1]で引用されていた2014年OECD閣僚理事会での安倍首相の基調演説[2]を紹介しました：

“日本では、みんな横並び、単線型の教育ばかりを行ってきました。小学校6年、中学校3年、高校3年の後、理系学生の半分以上が、工学部の研究室に入る。こればかりを繰り返してきたのです。

しかし、そうしたモノカルチャー型の高等教育では、斬新な発想は生まれません。

だからこそ、私は、教育改革を進めています。学術研究を深めるのではなく、もっと社会のニーズを見据えた、もっと実践的な、職業教育を行う。そうした新たな枠組みを、高等教育に取り込みたいと考えています。”（※太字強調は引用者[1]による）

続いてパネリストの方々のコメントを頂いた上で、会場の参加者も含めて全員で自由に意見を述べて頂きました。「教養とは何か」のようなコンセプト的な話題から、学校教育の現場の具体的な話題まで、幅広く意見が交わされました。天教の集会ではテーマが掲げられることが通例のようですが、何らかのテーマを掲げるのであれば、それについて参加者が語り合える場を設けるのは自然なことかと思われまふ。筆者のファシリテーションは甚だ拙いものではありましたが、今後も可能であればこのようなセッションを設けたい、と改めて感じる時間となりました。

なお、実は来春の日本天文学会の天文フォーラムも「教養」と「天文」の関わりについてのテーマで開催される方向で進んでいます。これは偶然ではなく、近畿支部委員でもあり天教フォーラム委員でもある筆者が「どちらかで採択されたらいいな」と両方に提案して

みたところ、ありがたいことに、どちらにも採用されてしまった、というのがその理由です。重複して大丈夫か？とも思ったのですが、両者で参加者が異なるため、近畿支部会では学校教育等の現場の感覚にウェイトがあったのに対し、天文学会では「高等教育の中での教養教育」にウェイトが置かれると予想され、おそらくだいぶ趣の異なるセッションになるのではないかと期待しています。

懇親会は少人数になりましたが、ちょうどよく全員の声がよく聞こえる個室で、教育について、いろいろと盛り上がりました。盛り上がり過ぎて4つに破れたサイン入りのトランプが元通りにつながるほど、川西の夜はとても楽しいものとなりました。

文 献

- [1] 西川伸一，ドイツ科学の卓越性の秘密：
Nature 最新号の記事を読んで、
<https://news.yahoo.co.jp/byline/nishikawashinichi/20170910-00075571/>
(2017.11.11 確認)
- [2] 首相官邸，平成26年5月6日 OECD 閣僚理事会 安倍内閣総理大臣基調演説，
http://www.kantei.go.jp/jp/96_abe/statement/2014/0506kichokoen.html
(2017.11.11 確認)



中串 孝志